

報道関係者 各位

令和4年7月1日

【照会先】

新潟労働局 労働基準部 健康安全課

課長 市川 尚

産業安全専門官 鈴木 政昭

TEL : 025 - 288 - 3505

新潟県内における令和3年の労働災害発生状況を公表します

～死傷者数は平成12年以降で最多～

新潟労働局（局長 吉野彰一）では、新潟県内における令和3年の労働災害の発生状況を取りまとめましたので公表します。

令和3年1月から12月までの労働災害による死亡者数（以下「死亡者数」という。）は18人（前年比3人・20.0%増）と昨年の減少から増加に転じました。休業4日以上死傷者数（以下「死傷者数」という。）は3,204人（前年比682人・27.0%増）と2年連続で増加し、平成12年以降で最多となりました。

なお、新型コロナウイルス感染症のり患による死傷者数は364人（前年比333人、1,074.2%増）と前年に比べ大幅に増加しました。

労働災害を減少させるために重点的に取り組む事項を定めた中期計画である「第13次労働災害防止推進計画」（以下「13次防」という。）（平成30年度～令和4年度）では、平成29年比で「死亡者数を15%以上」、「死傷者数を5%以上」減少させることを目標にしています。

死亡者数については、平成30年以降、目標数（6人以下）の2倍以上の状況が続いており、また、死傷者数についても平成29年と比較すると社会福祉施設、建設業、小売業、道路貨物運送業、製造業、飲食店の順で増加しています。

13次防の最終年度となる令和4年度は、職場における新型コロナウイルス感染症の拡大防止の徹底を図りつつ、製造業における施設、設備、機械等に起因する災害、建設現場等における足場等の高所からの墜落・転落災害、陸上貨物運送事業において多発している荷役作業中の災害の防止対策の徹底、小売業及び社会福祉施設などの第三次産業で多発している転倒や腰痛による労働災害防止を図るための意識啓発を通じた自主的な安全衛生活動の普及・定着、高年齢労働者に配慮した職場環境の改善等を重点に取り組んでいきます。

（概要は次ページに掲載）

全国の発生状況はコチラ↓
（厚生労働省 HP）



【令和3年労働災害発生状況の概要】

1 死亡者数

- 死亡者数は18人と、平成30年以降15人以上で推移している。
- 事故の型別では、「墜落・転落」が6人（3人・100.0%増）、「はさまれ・巻き込まれ」が4人（2人・100.0%増）となっているほか、「おぼれ」、「交通事故（道路）」及び「その他」が各2人、「感電」及び「火災」が各1人となった。
- 年齢別では、60歳以上の高年齢労働者が10人となり、全体の約6割を占めている。

2 死傷者数

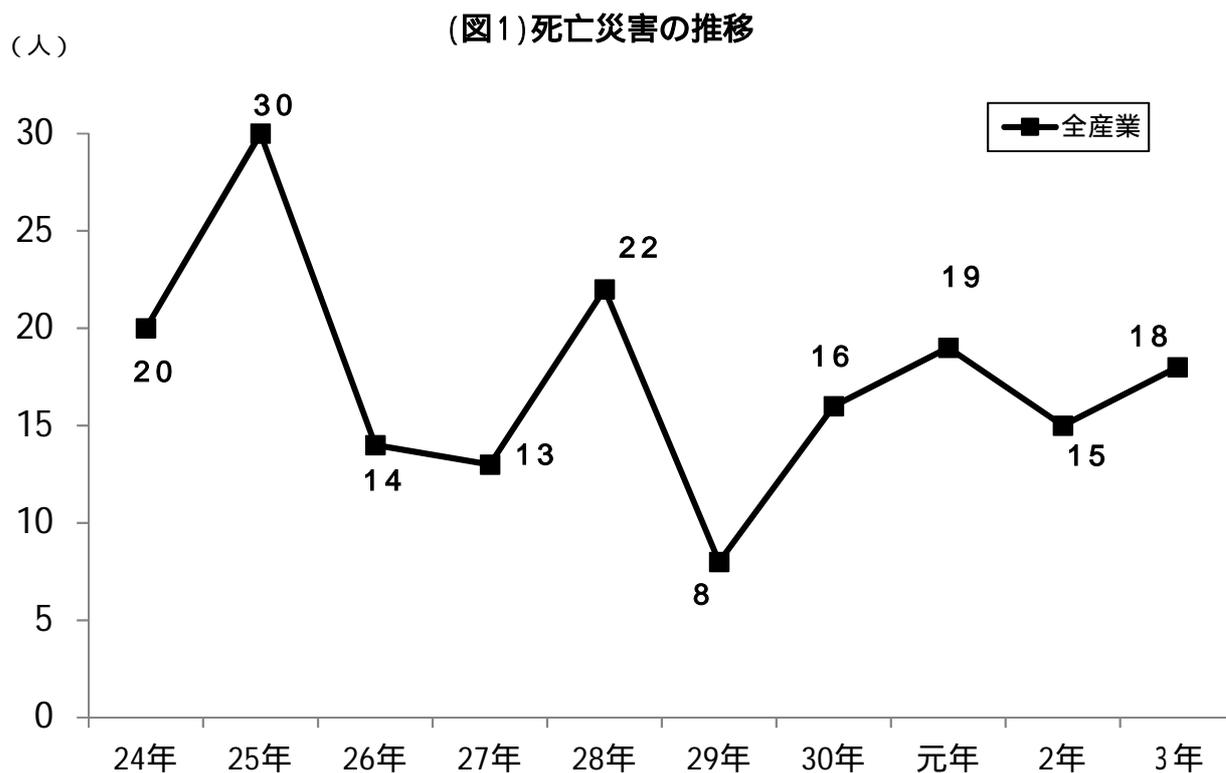
- 死傷者数は3,204人となり、2年連続で増加となった。
- 事故の型別では、「転倒」852人（前年比231人・37.2%増）、「墜落・転落」474人（前年比43人・10.0%増）、「その他（新型コロナウイルス感染症）」364人（333人・1,074.2%増）、「はさまれ・巻き込まれ」358人（2人・0.6%増）、「腰痛等の「動作の反動・無理な動作」347人（28人8.8%増）、「切れ・こすれ」208人（1人・0.5%増）などとなっている。なお、転倒災害が大きく増加した要因は、令和3年1・2月の大雪の影響（1・2月の転倒災害：令和2年125人、令和3年343人）によるものとなっている。
- 年齢別では、50歳～59歳（前年比202人・33.3%増）と60歳以上（136人・20.7%増）がそれぞれ全死傷者数の約4分の1を占めている。

【別 添】 - 令和3年 労働災害発生状況 -

令和3年 労働災害発生状況

1 死亡災害について

(1) 令和3年(令和3年1月から12月まで)の労働災害での死亡者数は18人で、前年と比較して3人増加しました(図1)。



(2) 業種別にみると、その他の業種(第三次産業)が7人(38.9%)と最も多く、次いで、製造業が5人、鉱業、建設業が各2人、道路貨物運送業、農林業で各1人となっています(表1)。

(表1)業種別死亡災害発生状況

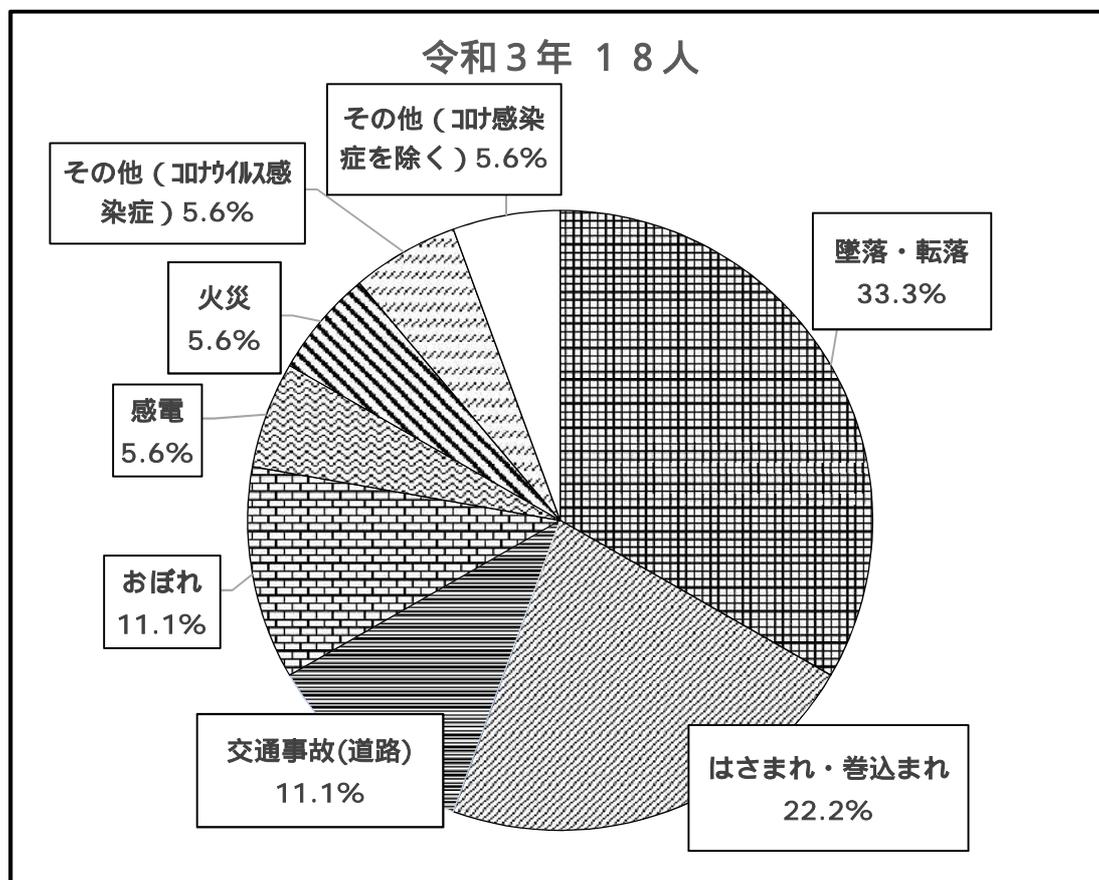
	製造業	建設業	道路貨物運送業	農林業	鉱業	その他の業種 (第三次産業)	計
令和3年	5	2	1	1	2	7	18
令和2年	0	7	3	0	0	5	15

- (3) 事故の型別にみると、「墜落・転落」で6人、「はさまれ・巻き込まれ」で4人、「交通事故(道路)」及び「おぼれ」でそれぞれ2人、「感電」、「火災」、「その他(コロナウイルス感染症)」及び「その他」がそれぞれ1人となっています(表2、図2)。

(表2) 事故型別死亡災害発生状況

事故の型別	令和3年	令和2年	前年比(人)
墜落・転落	6	3	+3
はさまれ・巻き込まれ	4	2	+2
交通事故(道路)	2	3	-1
おぼれ	2	1	+1
感電	1	0	+1
火災	1	0	+1
その他(コロナウイルス感染症)	1	0	+1
その他(コロナ感染症を除く)	1	1	±0
崩壊・倒壊	0	1	-1
飛来・落下	0	2	-2
有害物等との接触	0	2	-2
合計	18	15	+3

(図2) 事故型別死亡災害発生の割合

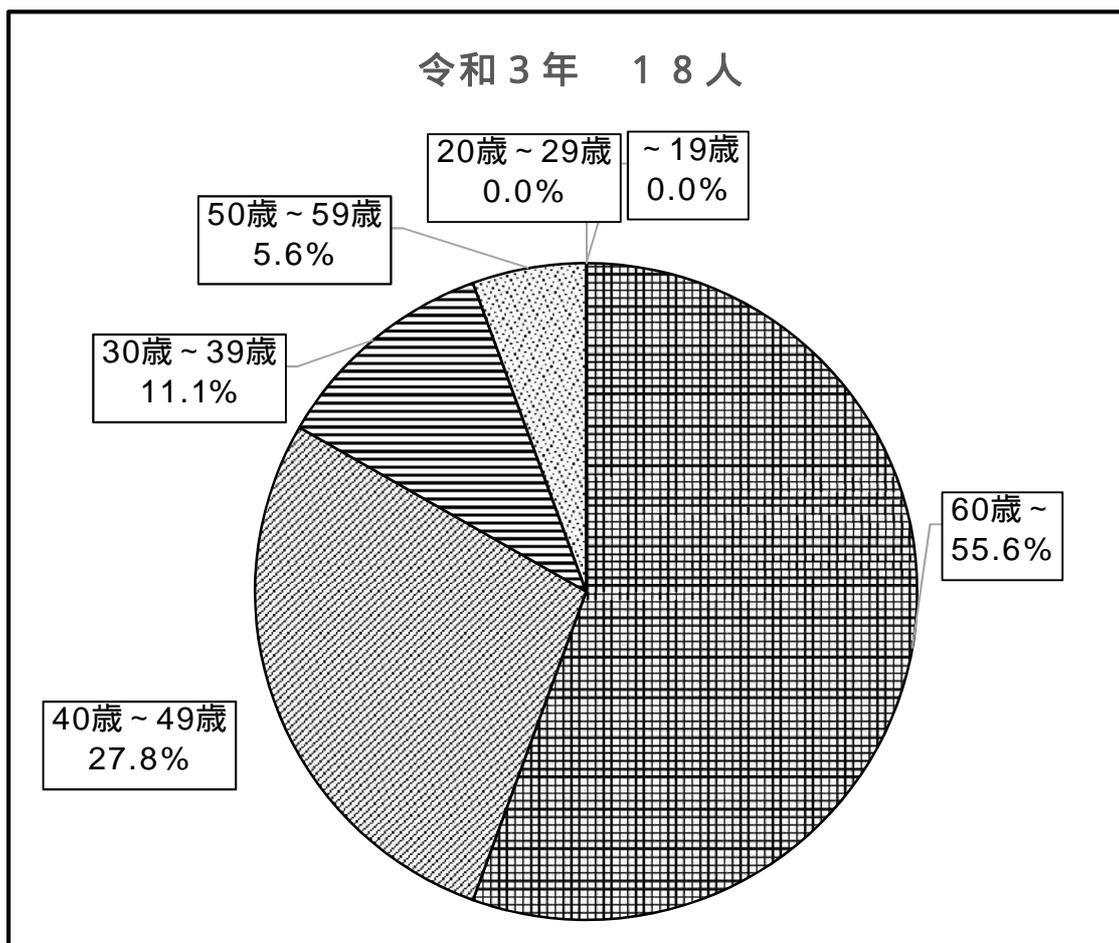


(4) 年齢別にみると、60歳以上が10人、40歳～49歳が5人、30歳～39歳が2人、50歳～59歳が1人となっています(表3、図3)。

(表3)年齢別死亡災害発生状況

年齢別	令和3年	令和2年	前年比(人)
～19歳	0	0	±0
20歳～29歳	0	0	±0
30歳～39歳	2	2	±0
40歳～49歳	5	2	+3
50歳～59歳	1	4	-3
60歳～	10	7	+3
合計	18	15	+3

(図3)年齢別死亡災害発生の割合



令和3年 業種別死亡災害発生状況

新潟労働局

○製造業

No.	発生月	発生状況	事故の型	起因物
1	2月	ショットプラスト装置から製品(レンチがこぼれ落ち拾おうとしたところ、下降してきたバケットにはさまれた。 【60歳代・男性】	はさまれ・巻き込まれ	金属加工用機械
2	4月	溶融した金属を入れる容器をクレーンで運搬して所定の場所に降ろそうとしたところ、反動で触れた容器に頭部がはさまれた。 【40歳代・男性】	はさまれ・巻き込まれ	クレーン
3	5月	昼食時に食堂で新型コロナウイルスに感染していた同僚の隣の席で食事をしていたため、新型コロナウイルスに感染して死亡した。 【40歳代・男性】	その他	その他の起因物
4	6月	制御盤内に取り付けたマグネットスイッチに配線の取付作業を行っていたところ、通電している電路に身体が触れて感電した。 【60歳代・男性】	感電	電力設備
5	7月	フォークリフトを走行中に水田に転落して車体の下敷きになった。 【40歳代・男性】	交通事故(道路)	フォークリフト

○建設業

No.	発生月	発生状況	事故の型	起因物
1	1月	物置の屋根除雪をするため、梯子を昇降中に2.6m下の地面に墜落した(推定)。 【70歳代・男性】	墜落・転落	はしご等
2	6月	コンクリートケーソンに引っ掛けた足場において、型枠材など固定する作業などを行っていたところ、足場が倒壊して海上に落下した。 【40歳代・男性】	おぼれ	足場

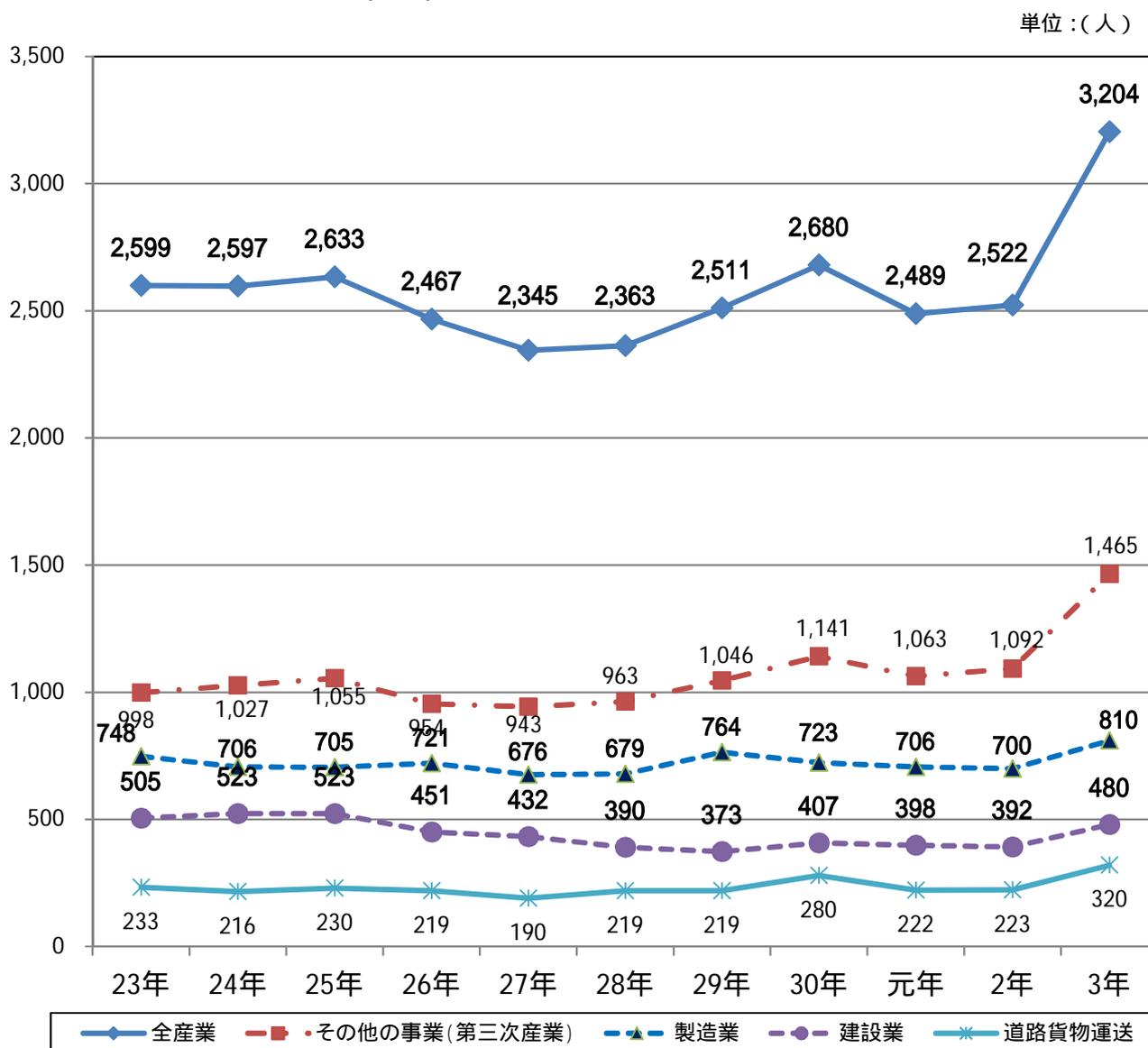
○その他(製造・建設以外)

No.	発生日	発生状況	事故の型	起因物
1	4月	対向車を誘導中にはねられた。 【60歳代・女性】	交通事故(道路)	乗用車
2	5月	車両積載型トラッククレーンの荷台に積んだユニットハウスの固縛作業を行っていたところ、当該ユニットハウス又は脚立から墜落した。 【50歳代・男性】	墜落・転落	トラック
3	6月	コンクリート廃材プラント内のコンクリート粉砕機の調整を行っていたところ、ベルトコンベヤーに巻き込まれた。 【60歳代・男性】	はさまれ・巻き込まれ	コンベア
4	7月	清掃中、階段から転落して頭部を強打した。 【70歳代・女性】	墜落・転落	階段・棧橋
5	7月	フォークリフトが自走してフォークリフトと攪拌機の間にはさまれた。 【60歳代・男性】	はさまれ・巻き込まれ	フォークリフト
6	8月	ワンボックスバンに3名が乗込み、現場事務所に向かって走行中、運転操作を誤り50m下の登山道に転落した。 【60歳代・男性】	墜落・転落	乗用車
7	8月	ワンボックスバンに3名が乗込み、現場事務所に向かって走行中、運転操作を誤り50m下の登山道に転落した。 【40歳代・男性】	墜落・転落	乗用車
8	8月	水田付近で草刈りを行っていたところ、蜂に刺された。 【60歳代・男性】	その他	その他の環境等
9	8月	自動車解体・部品取外し作業中に突然出火し、近くで作業を見学していた被災者が全身にⅢ度の熱傷を負った。 【30歳代・男性】	火災	引火性の物
10	10月	木造2階建て個人住宅の屋根に設置済の融雪装置の点検と屋根瓦に生えた苔の除去作業を屋根上で行っていた。金属工具のラチェットレンチを使用して苔の除去作業を行っていたところ、屋根軒先から6.95m下の地面に墜落した。 【60歳代・男性】	墜落・転落	屋根・はり・もや・けた・合掌
11	11月	工事の交通誘導に従事していた被災者が、休憩時間を過ぎても作業場所へ戻ってこないため、現場周辺を捜索したところ、約50メートル先の川に浮いている状態で発見された。 【60歳代・男性】	おぼれ	水

2 令和3年における休業4日以上之死傷災害発生状況

- (1) 令和3年(令和3年1月から12月まで)の労働災害による休業4日以上之死傷者数は3,204人で、前年と比較して682人(27.0%)の増加となりました(図4)。
- (2) 業種別にみると、その他の事業(第三次産業)が1,465人(45.7%)と最も多くを占め、次いで、製造業が810人(25.3%)、建設業が480人(15.0%)、道路貨物運送業が320人(10.0%)となっています(図4)。

(図4) 休業4日以上之死傷災害の推移



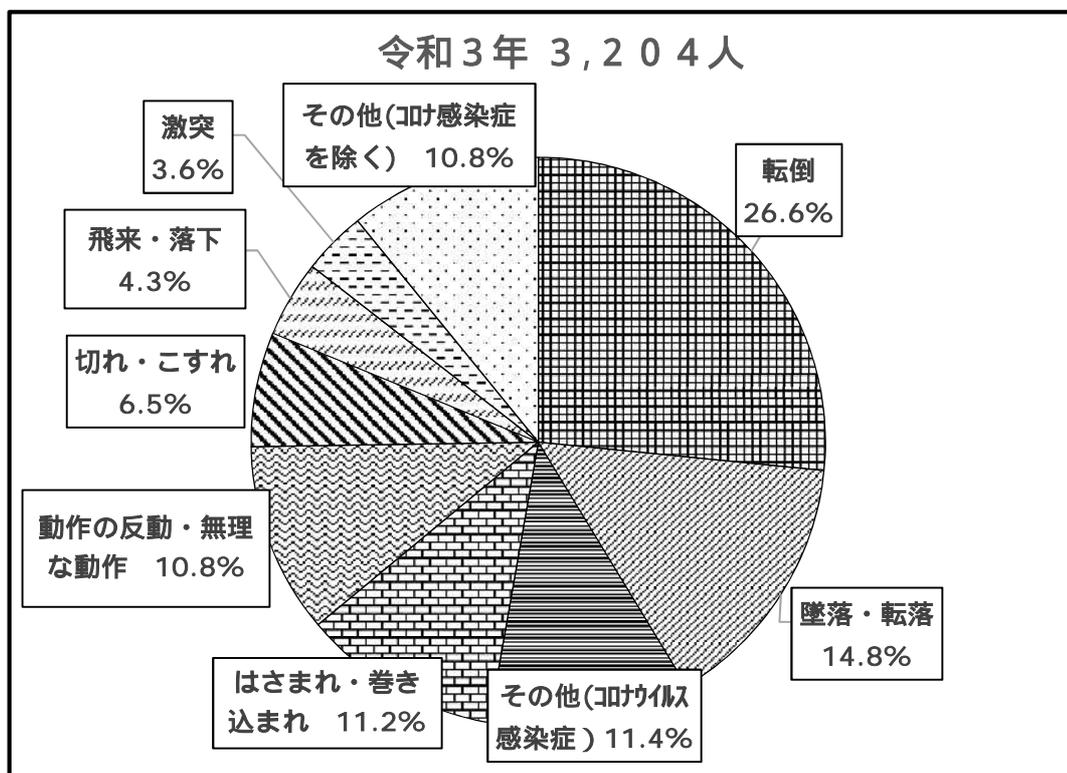
- (3) 事故の型別にみると、「転倒」の852人が最も多く全体の26.6%を占めています。次いで「墜落・転落」が474人(14.8%)、「その他(コロナウイルス感染症)」が364人(11.7%)、「はさまれ・巻き込まれ」が358人(11.2%)、「動作の反動・無理な動作」が347人(10.8%)となっています(表4、図5)。

(表4) 主な事故型別死傷災害発生状況

	令和3年	令和2年	前年比(人)
全産業	3,204	2,522	+682

事故の型別	令和3年	令和2年	前年比(人)
転倒	852	621	+231
墜落・転落	474	431	+43
その他(コロナウイルス感染症)	364	31	+333
はさまれ・巻き込まれ	358	356	+2
動作の反動・無理な動作	347	319	+28
切れ・こすれ	208	207	+1
飛来・落下	139	136	+3
激突	115	110	+5
その他(コロナ感染症を除く)	347	311	+369

(図5) 事故型別死傷災害発生の割合



(4) 年齢別にみると、50歳～59歳が809人(前年607人)と最も多く、死傷者全体の25.2%を占めています。(表5、図6)。

(表5)年齢別死傷災害発生状況

年齢別	令和3年	令和2年	前年比(人)
～19歳	49	36	+13
20歳～29歳	424	313	+111
30歳～39歳	455	376	+79
40歳～49歳	674	533	+141
50歳～59歳	809	607	+202
60歳～	793	657	+136
合計	3,204	2,522	+682

(図6)年齢別死傷災害発生の割合

